



こうりゅう 交流ハウス・亀の島



代表 西山 貴代美

住所 〒320-0048 宇都宮市北一の沢町19-10

TEL 070-5029-1055

FAX 028-666-2082

E-mail tigerpeak@gmail.com

URL <http://turtle-house.sl.bindsite.jp/>

❀ 目 的 ❀

「交流ハウス・亀の島」は、子ども・若者・大人が、一人の人間として、対等、かつ自由に交流することのできるフリースペースとして、また、学校を利用せずに、家庭をベースとしながら、様々な社会的資源や人とのつながりを利用して教育する在り方 = ホームベースド・エデュケーションを、意識的に選択した子どもたちや親のための学びと交流の場、フリースクールとして、2002年7月に、任意の団体として設立しました。

日本においては、ホーム・ベースド・エデュケーションやフリースクールの社会的認知度が低く、子どもが学校に行けなかったり、行かなかったりすると、子どもも親も不安に陥ったり、社会的な偏見にさらされたりします。そのような困難の中、孤立したり、自尊心を低下させたりすることなく、一人一人がかけがえのない存在であることや、子どもも大人も人として対等であることを実感できる居場所として、なおかつ、成長期の子どもの学習を保障するスクールとして開設しました。

❀ 事業内容 ❀

- (1) 不登校の子どもに居場所・交流の場を提供する活動
孤立しがちな不登校の子どもたちが、安心して集い、仲間と交流できる居場所を提供しています。
- (2) 子ども一人一人の要求とペースに応じた学習支援活動
どんな子どもも学びたいという要求を持っています。その要求に応え、一人一人のペースと自主性を尊重した学習支援活動を行っています。
- (3) 地域の子どもたちのための居場所と地域文庫活動
放課後のひととき、異年齢の子どもたちが集い、遊んだり、文庫の本を読んだりする、地域の「子どもの居場所」を創造しています。
- (4) 若者の自立を援助するための活動
若者の通学や就労がスムーズにいくように生活の場を提供しつつ、自立の過程を見守る、「ステップ・ハウス」の活動を行っています。
- (5) 子どもと大人の交流と文化活動
子どもたちを主体にしながら、大人とともに、作って食べたり、物を創作したり、野外活動を行ったりしています。子どもは大人から、大人は子どもから学びます。
- (6) 情報を発信したり、他団体・グループとつながる活動
会報誌を定期的に発行し、情報を発信したり、共有したりしています。また、他団体・グループとも積極的に交流し、つながり合っています。

❀ 活動報告 ❀

(1) 子どもたちの手による月例パーティー・おやつ作り

子ども主体の料理作りとパーティーの開催を積み重ねてきました。餃子、カレーライス、シチュー、ピビンバ、手打ちうどん、手作りつみれ鍋、お好み焼き等、レパートリーの一部をホームページにも楽しくアップしています。

(2) 通信「もしもしかめさん」の定期発行

月刊「もしもしかめさん」を購読している読者会員は県内外に70名程おり、頼もしい応援団として、「交流ハウス・亀の島」を支えてくれています。最近は、「もしもしかめさん」の制作・編集に、子どもたちも関わっています。

(3) 八周年記念・作品展開催

「もしもしかめさん」の表紙絵は、一貫して子どもたちが描いています。また、絵を描くことが好きな子どもたちが多く、描きためた絵が、「亀の島」を飾っています。それらを、2010年6月、八周年記念・作品展として発表しました。

(4) ワカモノフェスタへの参加

不登校・ひきこもりをテーマにしたワカモノフェスタに、2006年から2012年まで参加し、「子どもの居場所・分科会」を担当したり、助成金により購入したドラムや電子ギター等を使って、子どもたちがバンド出演をしました。

(5) 「わかものシンポジウム」の開催

助成金を活用し、2010年10月、「不登校・登校拒否・ひきこもり ～ だが、それは「通過点」に過ぎない ～ 」というタイトルの「わかものシンポジウム」を開催し、少し先行く先輩たちの話を聴き、ヒントとしました。

(6) 奥地圭子講演会の開催

2013年5月、不登校やひきこもりの親の会の全国ネットワークや東京シュールというフリースクールを主宰する、奥地圭子氏をお呼びし、「不登校・ひきこもりー子どものいのちに寄りそって」という講演会を開催しました。

(7) 若者の自立のためのステップ・ハウス

フリースクール・スタッフとして働いたり、地域で働いたりする若者の生活を見守り、自立を援助するためのステップ・ハウスの役割を果たしました。

(8) 地域の子どもの居場所「いばしょ・かめのしま」

2007年度より、宇都宮市の「子どもの居場所」事業に参画し、地域の子どもの居場所の一つとして活動してきました。



❀ メッセージ ❀

日本でも数少ないフリースクール&フリースペースとして、2002年度より一貫して子どもの最善の利益を優先する活動を行ってきました。子どもは未来へ放たれた矢であり、大人は送り手の弓です。子どもたちのより自由な飛翔を可能にする環境を調えるために、大人たちは手をつなぎ合って、工夫を重ねなければなりません。

尚、「交流ハウス・亀の島」は、主宰者の都合により、2014年2月でフリースペース・居場所部門を休止し、学習支援部門と、若者の自立のためのステップ・ハウス部門に役割を限定致します。





エンジェルライン



代表 代表理事 野田 幸枝

住所 〒320-0032 宇都宮市昭和2-7-9

TEL 028-908-7320

FAX 028-908-7253

E-mail info@angel-line.jp

URL <http://www.angel-line.jp/>



コンセプトは、子どもたちの明るい未来のために、地域の力で温かく見守りサポートできる明るい社会づくりを目指しています。

❀ 目 的 ❀

平成18年9月に、すべての人が性別にかかわらず職業生活と家庭生活を両立し、自己向上を図ることを選択できる地域社会を目指し、誰もが豊かで安心して暮らせる地域サポートを行い、社会貢献に寄与することを目的としてNPO法人を立ち上げました。

❀ 事業内容 ❀

子育て中の働くパパとママの要として、リーズナブルな価格で利用できるベビーシッターサービスを運営。乳幼児のお預かりから小学生の送迎サポートまで、多様なニーズに即したサービスを提供しています。特に、予期せぬ事態に備えて保育園からのお迎えの代行をする「体調不良児保育サポート」は働くパパとママにとってのお守りの存在になっています。

また、平成21年4月には、利用者からの「こんなサービスしてほしい!」のお声に応え、ハウスキーパーサービスもスタートしました。

日常の清掃・買い物・洗濯などの軽家事を代行し、職業を持つ女性のワークライフバランスの取れた生活スタイルを提案しています。また、初めての妊娠・出産を迎える家族のトータルサポートも行っています。

一方、支援してくださっている方は地域のボランティアのみなさん。老若男女を問わず、当法人の目的に賛同していただき、子育て世代の「困った?」や「ちょっとお願い。手伝って!」にきめ細かく対応し『笑顔の子育て』を地域社会全体で応援しています。

【ベビーシッターサービス事業】

1. 個人向けベビーシッターサービス・・・①体調不良児保育サポート②家庭訪問型保育③学童や習い事などの送迎
2. 法人向けイベント託児サービス・・・法人が主催するイベントに参加する方のお子さまの集団保育

【ハウスキーパーサービス事業】

1. 軽家事（清掃・買い物・洗濯）代行サービス
2. 産前・産じょくサービス
3. 入院期間中のお世話や留守中の家族の見守りサービス

❀ 活動報告 ❀

お陰様で、エンジェルライン会員総数は90名を超えました。

活動件数に於いては、本年度半期で600件にも及び、これも地域のボランティアの皆さまのご理解とご協力があつての事と改めて痛感しています。

「今何が必要なのか?」「何をすれば支えになれるのか?」時代の流れに伴い変化する多様なニーズ。それらにマッチした支援内容の整備を行い、活動の幅も少しずつ広がると同時に支援活動の狙いも定まって参りました。

子育て世代へのベビーシッターやハウスキーパーサービスなどの基幹支援活動の他、今年から平成28年度までの3年間、林野庁「森林・山村多面的機能発揮対策」交付金による「森の子」を発足。次世代を担う子育て世代とその子どもたちに森林の役割や大切さを伝えていくため、森林空間を利用して生き物観察、ネイチャークラフトやピクニックなど自然に触れ合う体験型イベントを企画しています。

体験の中から自ら生きる力を学び、明るくてたくましい未来を迎えられる一助となればと思ひ活動しています。



林野庁交付金事業「森の子」11/2（土）の様子

❀ メッセージ ❀

『笑顔の子育て応援します♥』をコンセプトにエンジェルラインはベビーシッターとハウスキーパー、そして職業を持つ女性には欠かせない病児保育の3つのサービスで働くパパとママを応援します。

ひとりで悩まず、当法人のサービスを上手に活用し、健全な子育てをお手伝いさせていただきます。

それぞれのご家庭が必要なサービスを、オーダーメイド方式でご提供することをお約束します。



な す けいちょう 那 須 傾 聴



代 表 会 長 杉 本 賢 蔵

住 所 〒325-0001 那須郡那須町大字高久甲4453-765
TEL・FAX 0287-60-0602
E-mail sugiken@kyp.biglobe.ne.jp

❀ 目 的 ❀

私達は那須町ボランティアセンターが主催した、傾聴ボランティア養成講座で学び、終了した仲間達で立ち上げたグループです。

高齢化が進行する世の中で、私達は次のような人達とお話を聴く活動を通して、温かな地域づくりに貢献をしたいと思っています。

- ・一人暮らしで寂しい・・・
- ・だれかとお話をしたいけど、色々な事情で外出ができない・・・
- ・施設に入居したが外の人とも話がしたい・・・
- ・介護の大変さをわかってほしい・・・
- ・子育ての不安を聴いてほしい・・・

そんな人達の気持ちに耳を傾け、お話をお聴きし、ほんの少し皆様に元気や明るさ、楽しいひと時を持っていただけるようなお手伝いを心掛けています。

❀ 事業内容 ❀

- 高齢者施設に訪問し傾聴ボランティア活動
- 個人宅に訪問し傾聴ボランティア活動
- 地域のイベントに参加し地域社会に貢献
- 当会独自の研修会の実施
- 栃木県内にある他傾聴ボランティアグループとの研修会・交流会への参加



❁ 活動報告 ❁

○活動している高齢者施設は

- 特別養護老人ホーム・・・2施設
- 認知症グループホーム・・・1施設
- デイサービス・・・・・・・・2施設

○個人宅に訪問しての活動は

現在5軒に訪問し活動をしています。将来はもっと要望が増えていくと思われるので、さらに会員のレベルアップや準備にぬかりのないように心掛けていきたいと思っています。

○那須町で最大のイベント「九尾まつり」が毎年9月最後の日曜日に行われています。

今年で11回目になるお祭りに、那須傾聴としては4回目の参加をしました。

パネルと手配りチラシによる傾聴ボランティアのPRと、鳥のから揚げの販売を実施しました。利益分については社会福祉協議会に寄付をして地域の福祉に役立ててもらいました。

特別養護老人ホーム「なすの苑」が毎年7月に実施している「納涼祭」にもお手伝いボランティアとして今年も12名参加し地域社会への貢献をしました。

○助成金を利用した自前の研修会の実施とその後の成果

傾聴に関する講演会を実施しました。

平成23年11月14日 AM10:00～PM3:00

那須町ゆめプラザ会議室

講師：山田 豊吉（ホールファミリーケア協会事務局長）

傾聴ボランティア活動が安定して、かつ継続的に行われるためには、グループ化と、ピア・サポート（仲間同士による支え合い）が不可欠です。しかしピア・サポートだけではすべて解決するわけではありません。外部の専門家の支援を得て、物事（困りごと）を違う視点で見ることも必要であり、仲間同士ではどうしてもマンネリ化したり、同じ視点、同じ対応でよしとする態度に陥りやすい事もあります。今回専門家による講演会を実施することが出来て、忘れていたことを思い出し、新たに自分の足りなかった事に気が付き、今後の活動に生かしていくことが出来たと思います。

❁ メッセージ ❁

高齢化がますます進み、これから施設は不足していき自宅療養、自宅介護、独居老人の家庭が増えていく事が予測されています。私たちはまず自分達の出きることからコツコツと活動を継続し、少しずつ活動の輪を広げていきたいと思っています。

栃木県各地にたくさんの傾聴ボランティアグループが活動しています、興味を持った方がおられましたら各地のグループに問い合せて仲間に入って下さい。



ほうじん うつのみやこくさいしょう しゃじょうばきょうかい
NPO法人 宇都宮国際障がい者乗馬協会 たてがみ

代表 理事長 阿久津 博 亮

住 所 〒321-0901 栃木県宇都宮市平出町2785番地
TEL 028-689-1117
FAX 028-689-1133
E-mail tategami2785@aol.com

❀ 目 的 ❀

当団体は、障がい者に対して、障がい者に障害の程度に応じふさわしいサービスの提供体制を確保し、障がい者がある有する能力に応じて、自立した日常生活を営むことができるようにするために「障害者総合支援法」及びその他の法令の趣旨に従い、障がい者に馬作業・農作業等の就労支援サービスを提供する事業を行うことで、障がい者の自立・就労・健康及び生活の向上に寄与することを目的とする。(運営規定より一部抜粋)

❀ 事業内容 ❀

- ・障がい者の方を対象とした通所施設で、SST・農作業・馬作業・革細工の製作等を行います。
- ・介護施設や病院等の他施設と連携し、清掃業務の研修を週4日行います。
- ・SST（社会生活技能訓練）を活用し、一般企業への就労支援を行います。
- ・必要に応じて、就労後のフォローアップを行います。

農作業や馬作業を通し、規則正しい生活と基礎体力を養いながら、個々の特性を把握し、就労につなげています。また、「バーベキュー」や「1泊旅行」等のレクリエーションや「職場見学」を行うことで、狭まりがちである障がい者の活動範囲を広げています。



日常的に馬と触れ合っています

❀ 活動報告 ❀

☆H. 25年11月現在、8人の方が無事、就労しました！！

一般企業の障がい者枠や就労支援施設A型に、見事に就職が決定しました。今現在、皆さん、障がいと上手につきあいながら、頑張っている姿が伺えます。

☆「共同生活支援施設（グループホーム）」を新設しました♪

障がい者は、成人しても、身体的、経済的に家族に頼らざるを得ない状況です。しかし、障がい者自身が高齢になるにつれ、頼るべき家族はいなくなっていくという課題に直面しています。

そこで、当団体では、障がい者の自立した生活を目指す「共同生活支援施設（グループホーム）」を今年11月より、オープンさせました。1人暮らしが初めての方や、1人暮らしだと生活習慣が不規則になってしまう方が、2人で1部屋のルームシェア形式で生活しています。朝夕は手作りのご飯を提供しています。

☆現在、無農薬の野菜づくりに力を入れています！

飼育している「馬の堆肥」や「漢方薬の搾りかす」、「米ぬか」を使い、なるべく無農薬で生産していることで、ご好評をいただいています。

利用者の方が、種から蒔き、育て、収穫した「野菜」や「米」を市内の農産直売所（4か所）や一般の店舗、保育園、小学校、東京市場に卸している。

❀ メッセージ ❀

見学は随時、受け付けております。興味のある方は、まずはお電話下さい！！



畑でキュウリの収穫

けっこん かんが かい NPO結婚を考える会『ありがとう』

代表 金山 欽 治

住 所 〒321-1101 日光市明神2364-3

TEL 090-6531-9920

FAX 0288-27-0611

E-mail kanakin2008@yahoo.co.jp

URL <http://arigatou5.web.fc2.com/>

❀ 目 的 ❀

ミッション・設立目的

この団体は、『少子化問題』が結婚出来ない時代の背景にあると捉え、未婚者の婚活活動を支援していきます。支援の形は、婚活イベントを企画・実施し、男女のふれあいの場を提供し、多くの方に結婚の相手を探していただき、結婚できるチャンスを与えます。この活動により、地域の意識が変わり、結婚への「おせっかい」者が増え、結婚し易い地域を目指し、少しでも多くの方に結婚していただくことを目的としております。

事業内容／事業項目

- ① 若い男女、中高年齢者の結婚チャンスのイベント・場の提供事業
- ② 若い男女、中高年齢者の1対1・お見合い相手の提供事業
- ③ 地域の婚活意識高揚のために、広報、教宣活動事業

❀ 事業内容 ❀

婚活イベントの企画・実施

- ① 若い男女、中高年齢者の婚活の場の提供事業
そば打ち体験、ケーキ作り体験、バーベキューでの共同作業、たこ焼きでの共同作業等を通じて、参加者の結婚相手を探す事業。
- ② イベントの参加者や地域からの相談を通じて、個人的に若い男女、中高年齢者のお見合い相手を探し、企画・実施する事業。
- ③ 地域の婚活意識のために、他の婚活支援団体との交流を図ったり、地域へ婚活意識を根付かせるために、婚活の活動を公共の広報に積極的に掲載を実施する事業。

❀ 活動報告 ❀

①婚活イベントの企画・実施

春、夏、秋、冬（一時期のみ）、たこ焼き・花見、バーベキュー、自然の中での立食会など。平成25年、16回の婚活イベントを企画・実施し、約500名の方が参加された。



春の婚活イベント参加者の声

- ・とても雰囲気がいい。
- ・スタッフの方が親切。(10名)
- ・アットホームな感じで楽しかった。
- ・手相の占い、開運の話が聞けてよかった。
- ・共同作業がとても良かった。



夏の婚活イベント参加者の声

- ・とても雰囲気がいい。自然に囲まれた中で、ゆったりと、とても楽しかった。BBQをしながら、時間もたっぷりあり、人柄が良く解かってよかった。
- ・皆さんには、結婚について伺った。今日にでも、結婚したい気持ちでいっぱい。今更ながら、どんな人が自分に会うのかわかりません。沢山の方にお会いして、結婚頑張ります。



秋の婚活イベント参加者の声

- ・女性とあまり会話したことがなかったので、良い機会に参加させて頂き、楽しい時間が過ごせました。
- ・結婚を前向きに頑張ろうと強く思いました。
- ・前回のバーベキューも楽しかったけれど、今回は会話中心で楽しかった。

② 地域活動

○地域の婚活意識のために、他の婚活団体との交流

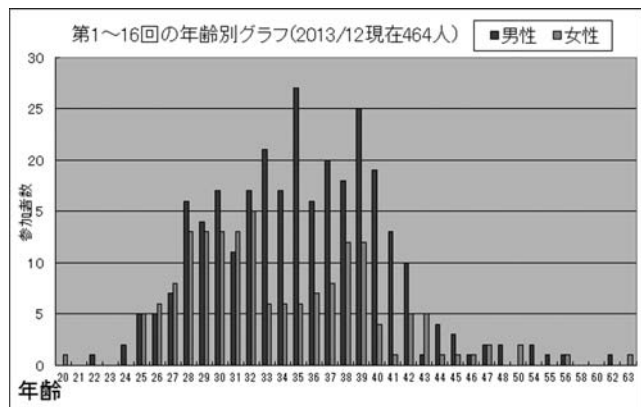
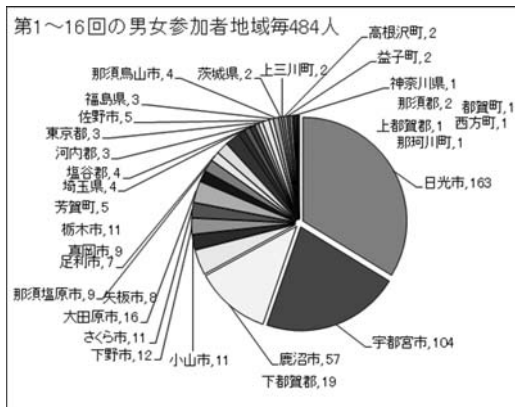
○地域への婚活支援意識を根ざすために、教宣活動を行う。

イベント再開時は、市の広報誌に掲載する。また、とちぎ未来クラブのホームページの婚活イベントに掲載する。積極的にラジオ放送参加、新聞に掲載する。

- ・とちぎ未来クラブ支援団体登録
- ・NHK宇都宮放送出演
- ・下野新聞投稿・取材形式掲載
- ・栃木県とちぎ未来クラブ講演
- ・日光市生涯学習プログラム参加
- ・真岡市緑組センターと交流・研修会

③ イベント結果

イベント時に63のカップルが誕生し、第4回のクリスマスイベントでは、結婚され現在2歳の男の子が誕生しています。また、第6回のバーベキューイベントでも結婚され、今年、お子さんが誕生しております。その他、具体的には連絡は無いが数組が結婚されていることをお聞きしております。末永く、幸せな家庭になって欲しいと思います。



✿ メッセージ ✿

人は、誰でも結婚をする夢を持っています。ただチャンスがあるか無いかです。なかなか男女の会う機会の少なくなった時代。自分から結婚活動をするのが望ましいですが、出会う機会が難しくなった時代、多くの方が男女の結婚を意識して、ひとりでも多く結婚出来るように「おせっかい」者が増えることを願い、楽しい家庭のともしびが、ひとつでも増えることを願っています。今後は、なかなかイベントに参加されない方でも結婚の相手が探せる新しいイベント企画をしてみたいです。

とくていひえいりかつどうほうじん 特定非営利活動法人

まごの手

代表 理事長 小 暮 悦 子

住 所 〒327-0314 栃木県佐野市新吉水町375

TEL 0283-85-8720

FAX 0283-85-8721

E-mail npomagonote@marble.ocn.ne.jp

URL <http://www3.ocn.ne.jp/~mago2010/>

❀ 目 的 ❀

まごの手は「高齢者や障害者を主に 地域住民に対して、迅速で柔軟な生活援助を行い、援助を通して お互いに助け合う思いを培い、安心して暮らせる地域社会づくり」を目的に、平成13年9月に住民参加型生活援助団体「まごの手会」として発足、平成17年8月31日特定非営利活動法人「まごの手」が認証され法人設立。平成24年4月18日に仮認定特定非営利活動法人に認定されました。

昔から地域社会には、近隣どうし互いの知恵や労力を出し合い 困った時は助け合う関係が存在していました。しかし、現在では人間関係が希薄になり、助け合う力が見え難く、身近にあった助け合いは、専門分化し、行政責任を明確化した制度による福祉サービスになりました。しかし、制度は ひとりの人間として生き、暮らす権利を守っているのでしょうか。今 制度に当てはまらない人や対応できない課題が山積しています。人の尊厳を考え、その人らしく生きることを尊重するのであれば、まごの手の迅速かつ柔軟に対応できる制度外の支援が必要です。私たちは『まごの手』の様に、かゆい所に手が届く温かい助け合い活動を行い、地域に暮らす住民として、地域福祉の充実を協働の力で創りたいと思っています。

❀ 事業内容 ❀

○福祉制度外の在宅サービス

①家事支援・・・掃除 食事作り 買物代行 窓拭き ゴミだし 薬受取り代行

②身体介助・・・病院・買物の付き添い 障がい者（当事者）の会や家族会の行事手伝い

○移送サービス・・・病院 買物 墓参り 帰宅

〈ただし、利用には道路運送法の規定により制約があります。〉

○地域の居場所 ふれあいハウス「たんとんとん」

・・・誰でも気軽に寄れる地域の居場所です。

毎週 水・金 10:00~16:00 利用料 300円 昼食希望者（材料代）400円

○その他

①「まごの手コンサート」 年1回開催

②機関紙 「まごの手通信」 発行

③地域福祉の普及・他団体との交流

○現在特に力を入れている取り組み

①新吉水町に事務所移転を機に自治会に加入し、ふれあいハウス「たんとんとん」を拠点に地域で活動ができるようになりました。最近は地域包括支援センターの勧めで「たんと

んとん」に参加される人やボランティアをしてくださる人が増えています。

毎週水曜日の手づくり昼食は大好評で、皆さん食事を楽しみに参加されています。

- ②まごの手は2年後の認定NPO法人取得に向けて寄附の呼びかけを行っています。福祉に縁のなかった人も、寄附の呼びかけを機にまごの手の活動を知っていただき、福祉に関心を持っていただいています。

活動報告

これまでの実績・成果

○制度だけでは人の暮らしは支えられません。福祉制度が改定され、私たちの望む福祉の在り方から離れていく中、「普通に暮らしたい」との思いを受け止め、その人の立場に立った住民による「助け合い」の必要性を感じ、平成13年9月 代表の小暮、車イスカーペンター治田さん、ケアマネジャーのNさんの3人で任意団体 住民参加型生活援助団体「まごの手」を立ち上げました。また、隣人の様子が大変だと知っていても、個人では深く関われない現状を知り、見守りから次の支援へつなぐ「仕組み」の必要性も感じています。「まごの手」がスタートし、今年で12年目を迎えました。11月現在 利用者数は156名になりました。

○平成17年8月31日 特定非営利活動法人「まごの手」設立

○平成18年5月25日 福祉有償運送許可

○平成23年9月12日 地域の居場所づくり事業認証

地域の居場所 ふれあいハウス「たんとんとん」スタート

○平成24年4月18日 仮認定特定非営利活動法人認定

利用者の声

○「まごの手のような活動は、他の地域になかなかありません。「まごの手」の活動があって助かります。とても貴重で、なくては困ります。」

今まで出来ていた事が、ある日突然出来なくなり、孤独に暮らす高齢者。障がい者やその家族は不安を抱え、介護に疲れ果てています。そのような事は地域の人に見えず、理解されません。迅速な支援、不安を軽減する支援、介護者・家族の支援の重要性を利用者の言葉で感じます。



❀ メッセージ ❀

住民による助け合い

将来の不安や孤独への不安につぶされそうになりながらも人々は、それに耐え、明日の希望、明るい未来を望んでいます。そして、地域で安心して暮らせる取り組みは待たなしの状況です。安心して暮らせる地域社会の実現には、人と人との絆を大切にし、お互いさまの気持ちで寄り添い、助け合う まごの手のような市民による活動が必要です。

助けて欲しい時に気兼ねなく頼める、すぐに助けてくれる、話を聴いてくれる、そんな助け合いを通して「自分らしく普通に生きられる、生きがいもてる」社会をこの地域で作りましょう。



下野市生涯学習情報センター登録団体

木きをし知ろう・森もりをし知ろう会かい

代表 吉田春彦

住所 〒329-0433 栃木県下野市緑4-24-5

TEL 090-2179-0269

FAX 0285-44-9349

E-mail hiko3-mana34@docomo.ne.jp

❀ 目 的 ❀

木の名前を知ることは、木に親しむ第一歩。そこから新しい世界が開かれる。

〈設立目的〉

- ① 知ることは喜びです。樹木観察会が会員の楽しみとなり、心豊かな生活を送るひとつの「居場所」になること
- ② 学び合った会員が、身近な公園などで子どもたちに木のことや森林の大切さを語り伝えるという「木と森のものがたり」(仮称)が実施できるようになること…私たちの夢です
- ③ 活動を通し、地域の元気な森づくりとまちづくりに役立つこと

〈設立年月〉

2008年3月 会員数35名

❀ 事業内容 ❀

〈活動内容〉

- ① 樹木観察会 毎月1回(第3週の火曜日)、ただし8月は夏休み
- ② 樹木の名札かけ(メンテナンス活動を含む)と植樹
- ③ 公開樹木観察会 地域住民を対象
- ④ 会報等の発行
- ⑤ その他

〈入会資格〉

- ① 樹木に関心があり、その名を知りたいと思う人
 - ② 歩いて樹木観察するので、健康な人
 - ③ 自己責任を事前承諾できる人→参加中の怪我などは基本的に自己責任
- 以上の条件を満たす人

〈運 営〉

- ① 運営は、運営委員会で企画し、会員全員であたる。(運営委員は15名前後)
- ② 年会費 1人 1,200円 ただし、家族会員の場合、2人目以降は1人 1,100円

❁ 活動報告 ❁

この5年間（2008～2012年）の活動で、樹木観察会は50回以上、植樹活動3回、そして、市当局に事前申請して実施している樹木札の取り付けも5か所になりました。（ゆうがお通りとその周辺公園、下野薬師寺跡周辺、諏訪山公園、天平の丘公園、^{つるまき}蔓巻公園）

また、樹木マップ（樹木観察ガイド）も3か所作成しました。（ゆうがお通り樹木マップ、下野薬師寺周辺樹木マップ、天平の丘公園樹木マップと観察ガイド）

これからも、樹木札の取り付けだけでなく、メンテナンスも行い、身近な樹木の名前を知りたいと思う市民のお役に立ちたいと思っています。

国分寺西小学校の「校庭の樹木に名前を取り付ける会」に参加。（2013. 5. 15）「児童全員で名札を取り付け、樹木への愛着と興味をもたせたい。樹木の名前を知ることにより、森や環境について関心をもつようになる。」という校長先生の思いに共感しました。樹木調査やその他の準備を終え、全校生徒と私たちの会から8人が参加して、実行しました。児童たちは目をキラキラさせていました。私たちは「お役に立てた」という満足感でいっぱいでした。6年目に入り、新たな活動分野に出会いました。



樹木観察会



樹木札



ゆうがお通りの樹木マップ

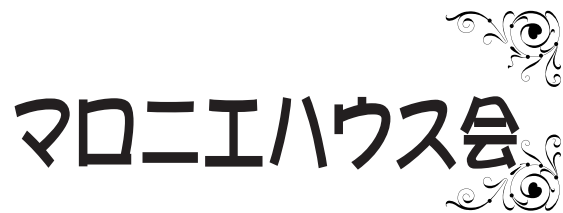
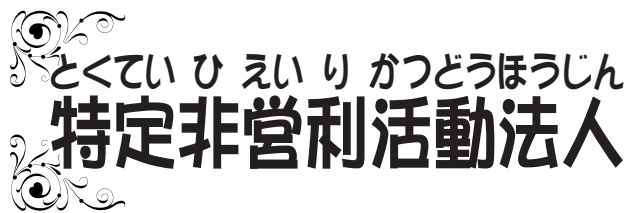


校庭の樹木に名前を取り付ける会

❁ メッセージ ❁

ある会員の声 — 5周年記念誌より

「杉と檜はわかっている。松と桜も判別がつく。木に対する私の常識はその程度だった。例会には毎月参加している。知ることは楽しい。人生の最後近くに入会させていただいた幸せを今しみじみと噛みしめている。」



代 表 理 事 長 小 林 利 之

住 所 〒320-0014 栃木県宇都宮市大曾2-7-15

TEL 028-612-1301

FAX 028-612-1301

E-mail marohous@khaki.plala.or.jp

❀ 目 的 ❀

在宅重度心身障がい者デイケア施設マロニエハウスは、当時栃木県立野沢養護学校(現のざわ特別支援学校)に在籍する生徒の保護者有志が中心となり「どんなに障がいが重くても一人の青年として輝く青春の日々を送らせたい」という願いのもとに、養護学校卒業後の受皿として平成11年12月に開所。平成16年3月に特定非営利活動法人を設立。

この法人は、在宅重度心身障がい児・者に対して、心身機能の維持向上及び家族介護の負担軽減を図ると共に、地域実態に即した心身障がい児・者の福祉対策事業を行い、自立や社会参加の推進に寄与することを目的とする。(定款より)

開所以来使用していた建物設備の老朽化が進み、今後地震など災害の回避を考え、平成25年3月現在地に移転。

❀ 事業内容 ❀

特定非営利活動に係る事業

① デイケア事業

在宅重度心身障がい児・者が通所し、健康確認、集団又は個別に日常動作等の機能訓練やリラクゼーション、創作活動などを行う。

②療育相談事業

療育相談会を年2回実施

・摂食指導 ・服薬指導 ・栄養指導 ・呼吸障害と排痰法 など

③ショートステイ事業

デイケア利用者に対し「宿泊訓練」という形で年数回実施していたが、現在は実施なし

❁ 活動報告 ❁

音楽療法、日常動作訓練を毎月、水泳教室は6月から10月頃まで3回程度実施しています。継続することにより身体機能・生活の質の向上が見られ、利用者さんとその家族からはもちろん職員のスキルアップにもなっています。

遠足・マロリンピック(小運動会)・年末お楽しみ会・新年会・節分・ひな祭りなど季節の折りに開催しています。

作品展の集いは、利用者さんの個性を伸ばす創作活動の発表の場として、また保護者・家族の参加を促し楽しみながら親睦を深める機会にもなっています。

療育相談事業では、摂食・服薬・栄養など日常生活に関連したテーマを選び専門家を招きご指導いただいています。

❁ メッセージ ❁

ここ数年、医療的ケアを必要とする利用者さんが増え、家族の介護負担が増えていることを肌で感じます。私たちの施設を利用することにより、介護家族の特にお母さんの負担軽減を図りたいと職員一同頑張っています。毎日、利用者さんが笑顔で通所して、笑顔で家庭に帰れるよう心がけています。



音楽療法



マロリンピック (小運動会)



遠足 (井頭公園)



作品製作の様子

ろうどく 朗読ボランティア はなみずき

代表 高久文江

住所 〒328-0053 栃木市片柳町2-43-1
TEL・FAX 0282-24-0144

❀ 目 的 ❀

設立目的一昨年は自然災害により多くの尊い命を奪いとられてしまい、いまだに立ち直れないでいる。又青少年の低年齢の非行化に伴い「いじめゼロ」に歯止めがかからず命をなくしている。「たった一度しかない一生を」山本有三の精神を群読で伝える・・・。「命の大切さを教示」する。

❀ 事業内容 ❀

「はなみずき会」では、山本有三先生の精神を生かし、「心に太陽を持て」の三番のことば…「他人のためにも言葉をもとう」としてカードを作り、一人でもいじめを少なく出来ればと思いを作って配布しながらその精神の意味を伝えています。また安心・安全の学校と施設であってほしいと願い、出前講座で有三先生の精神を群読して事業の展開をした。

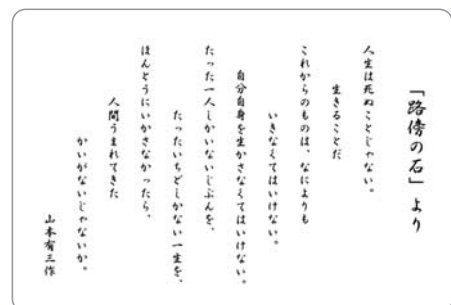
活動報告

- ①有三先生の精神を作品を通して朗読と紙芝居で小学校・幼稚園・保育園に実施（出前講座）8年間継続している。
- ②おとしよりには「百歳の詩人柴田トヨ」さんの詩を読み、心の癒しにと巾着袋と詩をカードにして贈った。
- ③毎月第一日曜日は「くらら」市民活動生活支援センターで（10時～12時）プレゼントの準備や詩の朗読にと勉強しています。
- ④毎週金曜日朗読に力を入れ勉強会を第6コミュニティで（13時～16時）まで練習しています。
- ⑤施設慰問では、柴田健一（百歳の詩人柴田トヨさんの息子）さんから詩の読み方を感情こめて指導を受け、会員一同勉強になりました。
- ⑥「くらら」生活支援センターの「くららフェスタ」では、毎年12月に「吾一の焼いも」を焼き、募金を募り、その売上金で、小学校・幼稚園へ訪問時のプレゼント代にあてています。

カード表



カード裏



⑦第10回を迎えるコミュニティ祭り（26.2.11）に参加して今年は「百歳の詩人柴田トヨ」さんの作品「くじけないで」ほか5編を読み心の支えにしたいと思っています。
 会員である日里嘉子さん手作りの袋をプレゼントし、詩のカードも柴田健一さんの許可をいただき皆様に送りたいと思っています。

❀ メッセージ ❀

今こそ有三の精神が必要である。作品「竹」のように皆、見えないところで手を取り助け合いの心が必要である。自殺したり他人をいじめたり死に追いやる言動をつつしみ、支え合う心こそが、日本人の美德ともいえる。これからの若者は美しい日本を指標し、舵をとる目的をもって進んでもらいたい。

活 動 写 真



第61回析高祭 群読



山本有三生誕125年群読で祝う



箱の森保育園 群読



吹上小学校 群読



施設慰問 レューナ



大平図書館 おはなし教室

「人生は死ぬことじゃない、生きることだ、これからのものは何よりも生きなくてはいけない、自分自身を生きさなくてははいけない。」 有三「路傍の石より」抜粋



ブルーベリーズ

代表 連絡係 尾形 隆喜

住所 〒325-0033 栃木県那須塩原市埼玉84-220

TEL 0287-60-5170

FAX 0287-60-5170

E-mail We&t-ogt@asahi-net.or.jp

❀ 目 的 ❀

県シルバー大学校北校での介護実習で老人ホームを訪れ、入、通所者のお年寄りと交流するボランティアが出来ればと考えた前代表が、所属していた「那須高原コーラス」の仲間呼びかけ設立し、2007年より「養護老人ホームでの歌唱サービス。聴く人・歌う人共に癒し癒される感動を共有できることに心掛ける」という設立時の主旨と目的で月に1～2回の割合で活動を行っています。

❀ 事業内容 ❀

現在メンバー18名、最高年齢80才、平均参加者12～3名で定期的に要請を受けた老人福祉施設を慰問し、お年寄りの人たちと一緒に昔懐かしい唱歌や抒情歌、演歌等を1時間15曲程度歌い、歌を通じて入、通所者のお年寄りの方々が慰められ、励まされ、元気を与えられるように。

その他、老人ホームの納涼祭や地区の敬老会等で定期の慰問と同じような内容で活動しています。



第二の人生に施設の慰問を続けるブルーベリーズのメンバー

2008.5.8 下野新聞 県北・日光版に掲載された活動の様子の写真

❀ 活動報告 ❀

平成24年 訪問場所

| | | | |
|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 4月16日(月) | レクラン那須塩原 | 4月23日(月) | ホット乃木 |
| 5月21日(月) | さくら荘 | 5月28日(月) | 寿山荘(住吉) |
| 6月4日(月) | 寿山荘那須 | 6月8日(金) | あじさい苑 |
| 6月18日(月) | あじさい苑サービス | 7月2日(月) | 管間病院セレビィ |
| 7月9日(月) | ホット乃木 | 7月23日(月) | レクラン那須塩原 |
| 8月8日(水) | 聖園那須【納涼祭】 | 8月27日(月) | ゆたか苑 |
| 9月3日(月) | ほっと乃木 | 9月17日(月) | 上薄葉公民館敬老会 |
| 11月10日(土) | あじさい苑文化祭 | 11月12日(月) | 寿山荘那須 |
| 11月15日(木) | なすの苑 | | |

平成25年 訪問場所

| | | | |
|--------|-----------------|--------|-----------------|
| 1月21日 | ほっと乃木ケアセンター | 3月4日 | 埼玉サービスセンター |
| 3月16日 | ゆめプラザ那須 | 4月12日 | ほっと乃木ケアセンター |
| 4月15日 | 特別養護老人ホーム寿山荘那須 | 6月10日 | 埼玉サービスセンター |
| 6月24日 | ケアステーション「あけぼの」 | 7月18日 | ほっと乃木ケアセンター |
| 7月24日 | にしなすの総合在宅ケアセンター | 8月7日 | 聖園那須老人ホーム |
| 8月13日 | 渡辺宅 | 9月2日 | 特別養護老人ホーム寿山荘那須 |
| 9月16日 | 大田原上薄葉自治公民館 | 10月7日 | にしなすの総合在宅ケアセンター |
| 10月28日 | ほっと乃木ケアセンター | 11月7日 | 埼玉サービスセンター |
| 12月11日 | ほっと乃木ケアセンター | 12月19日 | にしなすの総合在宅ケアセンター |

❀ メッセージ ❀

ブルーベリーズは、介護老人ホームで、昔懐かしい唱歌、抒情歌、演歌等をホームの方々と一緒に歌う歌唱ボランティアの活動をしています。一緒に歌っていると、懐かしいメロディーに昔のことを思い出し涙を流す方々を何度も見かけます。また、1時間程歌い終わると、嬉しそうに笑顔でまた来てくださいと声をかけられます。それは、私たちメンバーにもとても励みとなっています。



2013.3.16夢プラザ那須 ボランティア講座で活動の様子を披露



ぬまわ だまち
沼和田町

しょうじゅがい
沼寿会

ゆうゆうがい
友結会



代表 事務局長 田村 哲夫

住所 〒328-0042 栃木県栃木市沼和田町47-50

TEL 0282-22-5247

FAX 0282-22-5247

E-mail 現在休眠中

URL 現在休眠中

❀ 目 的 ❀

老人会を運営する中で、一人住まいの高齢者の多いのに気が付いた。また、夫婦住まいでも高齢からの「痴呆」や「心身異常」の方を看病する方々が多いのに驚いた。そこで、会員の有志が集い、お互いに高齢者に対して何が必要か？何が求められているかを検討し、老人会として何ができるか？数回にわたり検討会を開いた。会員の中には民生委員を務める方もいて、高齢者を対象にした「茶飲み会」を開こうということになった。

初めは、児童も含めて学校でスタートした。どうしても児童中心にプログラムが生まれ、目的と異なることに気付き、本来の主旨に戻し、会場費がかかるが地域の「公民館」で開催することにした。活動内容は、楽しく学び、休憩時には心を癒すお茶の会とした。早速「チラシ」を作成し、全戸に配布した。チラシも読みやすいように、文字よりも絵を多くして、気軽に参加できることを強調した。

最初は毎週水曜日午後1時30分～3時30分とした。老人会活動と区別するため、「友結会」活動とし、互いの絆を深めることを目指した会の名称にした。

運営に関しては、役職は少なくし、会計・庶務と印刷物の担当の事務局とし、開催時は地区別に4班が順次担当し、茶菓子代100円の徴収と会場作成等を担当している。実施して感ずるのは、会員各自が本当に献身的に自主的に活動するようになったことだ。

3年目を迎え、地域にある老人ホームからも3～5名ほど参加するときもあるが、手を引いて座席に誘導したり、帰り際には車まで手を貸すなど予期せぬ効果が見られる。他の町内の方も参加しているが、このため車送迎の労を厭わず実行している。ただし、保険加入者に限定している。なお、老人会としてのこの活動は、全老連より表彰をされた。

❀ 事業内容 ❀

- ① 高齢者が自分一人ではないことを知り、会に参加することで生き甲斐を感じるような活動を工夫し実践する。ただし、時間内に終了するよう心掛ける。
- ② 高齢者が増加することを意識し、参加者が気軽に参加できるよう配慮する。このため、活動内容を知らせる広報を月1回全戸に配布する。
- ③ 活動内容が偏らないように会議を3月に1回開催し、意識の高揚を図る。
- ④ 会場は公民館だけでなく、戸外に会場を移し、「ばら園見学」「市保養施設」も活用
- ⑤ 2時間で終了するような、絵手紙・手芸・書写・軽体操・折り紙・ペタンク・輪投げ・カラオケ・童謡等バラエティーに富んだ内容を工夫する。
- ⑥ 足腰の弱い方のために車で送迎する。ただし、保険加入者のみとする。
- ⑦ 製作物の良い物は、市の展覧会や地域の展覧会に出展し、好評を博している。
- ⑧ いただいた基金の中から「ペタンク」用具を購入し、時折練習を重ね市大会に出場し、準決勝戦に進出した。
- ⑨ 活動も3年目を迎え87回となり、参加者は520人を数える。

❁ 活動報告 ❁

これらの活動が遂行できましたのも、貴団体の援助基金を頂戴できたからであり、参加者の希望を満足させられる行事をスムーズに進めることができたと思う。指導に際して、貴団体の趣旨を伝えることができて、材料費程度の謝金で協力いただき、講師陣もボランティア精神の涵養になったと思う。参加者も事業ごとに増加し、会場づくりに会員が喜んで自主性涵養に役立った。地域の高齢者だけでなく、他町内の高齢者が参加することで、他町の活動へ関心をもつ会員もおり、高齢者施設の参加者から多くの刺激もいただいた。そして、参加者が喜んでいる姿と会員が積極的に活動するようになったことこそ成果と思う。

全老連がこの活動を認め、表彰していただけたのも、貴団体の援助のお蔭である。特に、基金から「ペタンク競技」の用具を購入させていただきましたので、参加者を含め会員も競技に熱が入り、練習を繰り返し市老連のペタンク大会で準決勝に駒を進めることができた。そして、「ペタンク」愛好者が増えて、会として競技できる日を期待したい。

会に参加している方々の声として、大勢の方と接し色々な学習やおしゃべりができて、会のある日が楽しい。学習後に会が用意してくれるお菓子や、時折参加の人が差し入れてくださるお漬物や煮物などで、ひとときが過ごせることも楽しい。しかも、足腰が弱い方々には、自家用車で送迎してくれて本当にありがたい。



「絵手紙」学習風景



公害原点「渡良瀬遊水池」学習会（市福祉バス利用）



ペタン玉の行方を見守る

❁ メッセージ ❁

私ども一地区の老人会を運営していくのに、限られた予算では決められた内容をこなすのがやっとで、地域の実情に当てはまり、弱者とも言える足腰の弱い方や高齢者は、老人会に加入できません。今回の活動資金はこんな実情を打破させてくれました。大変喜んでます。このような状況を報告したので、全国老人連合会の表彰に繋がりました。また、「蛍を飛ばす活動」も順調で、市長・教育長さんに来賓として参加していただき、3回に分けて蛍を飛ばした。近隣の子供会の子どもと父母や、近隣の小中学校生徒等の約300人余が参加し、楽しい会となったことを報告します。



ひょうごづかげんき かい 兵庫塚元気の会

代表 会長 若目田 久 雄

住所 〒321-0138
 栃木県宇都宮市兵庫塚3-32-3
 TEL 028-654-2337
 FAX 028-654-2337



設 立

平成16年5月28日 「第1回兵庫塚元気の会」開催

❀ 目 的 ❀

- 高齢者の生きがいづくり、健康づくり、友達づくりの場を作る。
- 高齢者と子供達の、ふれ合いの場を作る。
- 高齢者の社会貢献の場を作る。
- いろいろ学ぶ事を通して支え合い助け合いの精神を養う。
- 高齢者や子供達が、安心して暮らせる明るい町づくりを目指す。

❀ 事業内容 ❀

- * 地域に住むおおよそ65才以上の高齢者（特にひきこもりがちの高齢者）を外に出すため、年10回、地域交流センター（特別養護老人施設 元気の里内の会場）を活動場所にして開催している。（市内に住むおおよそ65才以上の人なら誰でも自由に参加できる、参加費無料）
- * 午前10時から12時までとし、元気体操、工作で物づくり、楽器演奏やコーラスの練習。各部専門の先生から指導を受け、楽しみながら人と人との交流の場を広げ若返りにつなげている。
- * 年1度の旅行は、ひきこもりがち高齢者が社会の視野を広げる良い機会となっている。



足利学校1日入学 社会への視野を広げる

魅力ある活動の充実

- *「兵庫塚元気の会」は、設立10年目、開催回数も100回に近づき、見て楽しむから参加型に

移行してきています。頭や手を使った工作での物づくりでは、クラフトテープで籠やマリを編んだり、牛乳パックをミキサーで溶かして紙をすき、その紙で絵手紙を習ったりしました。花咲く春は、押し花を作り「押し花教室」を開き、作品の一部は地域の老人施設に寄付することもできました。絵手紙や押し花などは地域の催しもので展示し、腕前を見て頂くこともできました。

楽器を購入できたおかげで、演奏だけでなくリズムに乗って体を動かしたり、歌を唄ったりと若返り作戦が大成功。この結果、参加者は10歳以上若返って見えるようになりました。

*「児童ふれあい会」では、林でドングリを拾いそのドングリを蒔いて育てる楽しみと、育てた苗を足尾の山に植える夢を持つことができました。

*指導の先生は各部門とも地域の有識者にボランティアとして協力頂いています。

*福祉バスを利用した旅行は、ひきこもりになりがちな高齢者が、社会の視野を広げる良い機会となっています。

❀ メッセージ ❀

*民生委員、福祉協力員、自治会長、の「三者懇談会」を通し一人暮らし、二人暮らしの高齢者を把握するだけでなく、地域とのつながりを持たせる場を作っています。また、児童虐待などの情報交換も行ない、同じ地域に住む子供から高齢者までが交流することは、明るい「まちづくり」につながっています。

*見て楽しむから参加型に移行したため、材料費や道具、楽器代など経費がかさみます。実績を認めて頂き支援して下さいる皆様方に頼るほか御座いません。今後も支援して下さいる皆様方に恥じない様に一生懸命頑張りますのでどうぞ宜しくお願い致します。(ちなみに参加費、材料費は一切無料。旅行のみ1,500円。1回の参加者は平均約50人)

参加者の声

*83才(男) 家の中になると孤独になりがちだけどちょっとオシャレをして「兵庫塚元気の家」に参加することで縦、横のつながりができるのは、うれしいことです。スタッフの皆さんに感謝しています。

*85才(女) 毎回楽しみにしています。何を着ていこうか楽しみだし、皆さんとお話が出来て楽しいです。特に旅行が一番楽しいです。役員の皆さんは、何かと大変でしょうが長く続けてほしいです。本当に有難うと言いたいです。



参加者の作品



児童とのふれあい会

代 表 施 設 長 関 口 房 代

住 所 〒328-0032 栃木県栃木市神田町6-15
TEL 0282-51-2291
FAX 0282-51-2921
E-mail npoumigame@gmail.com

❀ 目 的 ❀

NPO法人 海がめ 理念

1. メンバーさんの自主性を促し尊重します
2. メンバーさんの歩みに寄り添います
3. 地域の精神障がいの理解に貢献します

スタッフ心得

1. 誠実な対応
2. 謙虚さを忘れずに
3. 同じ目線での支援

❀ 事業内容 ❀

①就労継続支援事業（B型）「海がめ物語」

一般企業での就労が困難な障がいの者の就労訓練及び日常生活訓練を通して、自立した生活を地域で営むことができるよう支援します。

②指定特定相談支援事業「海がめ」

利用者のニーズに合わせて計画書を作り、社会資源につなげていきます。就労後の相談など障がいの者の就労を全面的にバックアップします。

③日中一時支援事業「砂浜くらぶ」

日中等における活動の場を確保することにより、障がいの者の家族の一時的な負担軽減を図ると共に、ゆったりとした環境で自分を出せる支援を目標とします。「したいこともしたくないことも応援します」

④移動支援事業

通常は自力で外出が可能であっても具合が悪く一人での外出が困難な場合などに同行して付き添います。また、社会参加を応援します。

❀ 活動報告 ❀

- 2008年より当事者が働く練習のできる場として、和（なごみ）カフェ「海がめ物語」がオープン。高齢者や子育て中の方にもやさしい店として、社会適応訓練所となった。
- 2009年、ふるさと雇用再生特定事業「障がい者等の相談事業」
- 2010年に「特定非営利活動法人 海がめ」設立し、就労支援・相談支援を行う。
- 2011年より日中一時支援事業を開始。
精神障がい者の病院デイケアの民間版として、引きこもりがちな当事者の居場所やコミュニケーションスキルアップや相談支援を行う。
- 2012年より就労継続支援事業を開始。調理・販売・菓子製造等の作業を通し就労訓練を行う。



当事者研究の様子

自分の苦勞を研究し発表します。
ピアサポート活動も始まりました。



女子会

女子メンバーでおやつ作り。

❀ メッセージ ❀

同じ苦勞を分かち合える「仲間」がいると、一人では苦手なことにも挑戦できると思います。
楽しいこともつらいこともみんなで共有し、それぞれの目標に向かって頑張っています。



いしぐら 石蔵さろんの会 がい



代表 会長 山 口 俊 一

住 所 〒321-3237

宇都宮市道場宿町1131（とちぎYMCA福祉会わいわい道場宿内）

TEL 028-667-9258

FAX 028-667-9259

E-mail shio.tatsu@gmail.com

❀ 目 的 ❀

わたくしたちは、世代を超えた地域の人々の居場所を提供します。

わたくしたちは、居場所づくりで、人づくり&まちづくり がテーマです。

わたくしたちは、地域のニーズに応えます。

❀ 事業内容 ❀

私たち「石蔵さろん」は、平成21年度からボランティアグループ「石蔵さろんの会」を中心にコミュニティーカフェを構想し活動をスタートさせました。その間、宇都宮市、栃木県経済同友会、栃木県社会福祉協議会、宇都宮東ワイズメンズクラブなど様々な団体の方々より助成や補助、ご寄付などをいただいで地域の居場所作りを展開し、現在までの5年間にわたる活動の変遷で「時代とともに変化して多様に注目を集める地域の居場所」として現在も成長を続けております。



石蔵さろん



宇都宮市広報掲載

❁ 活動報告 ❁

◎第1幕 若者たちの力で地域の居場所カフェを創設！

平成22年度、栃木県経済同友会の社会貢献活動助成金をいただき「地域の高齢者と社会参加に挑戦する（いわゆるニートと呼ばれた）若者の交流の居場所作り」として、ハードの整備と充実を図りました。おかげさまでトイレや厨房など居場所としての整備を進めカフェらしい体裁を整えることが出来ました。

その後、イベントや企画などを中心に交流カフェの活動を続け、子どもたちや生きがい対応型デイサービスの高齢者等の立寄ることのできる居場所として不定期ながらもカフェ活動が続きました。

その後、地域の居場所カフェを使いたいという地域の他のグループも現れ、「認知症の人と家族の会 栃木県支部」との出会いが始まりました。

ここから居場所は大きな転機を迎え、若者らによる居場所カフェは“オレンジカフェ”（認知症の人を地域で支える交流カフェ）へと変貌を遂げました。店は「認知症の人と家族の会」に引きつがれ若者は新天地を目指すこととなり、カフェの主は交代しましたが、石蔵さろんの創設に携わった若者ボランティアグループは“オレンジカフェ”の陰の立役者として確固たる足跡を刻みました。

◎第2幕 認知症の人を地域で応援するオレンジカフェ

平成23年度から石蔵さろんの会と宇都宮東ワイズメンズクラブのボランティアは、居場所カフェを若者たちから引き継ぎ、「認知症の人と家族の会 栃木県支部」の活動場として提供しました。そいてカフェ活動のノウハウを提供し、全国でも“オレンジカフェ”の実現に寄与しました。現在、新聞やテレビで頻繁に取材を受け先駆的な事例として日本全国に名をはせる栃木県宇都宮市の“オレンジサロン”はこうして“石蔵さろん”で展開されることとなりました。

❁ メッセージ ❁

石蔵さろんは活動の形や対象を時代とともに変化させながら、現在まで“多様な注目”を集めています。そして関わる人の輪を拡げながら、より豊かで多様な共生のまちづくりのエンジンとしてこれからも地域の方々のニーズに活かされてゆくことでしょう。

このストーリーの初めに、栃木県経済同友会の社会貢献活動助成があり、今日のさろんを支えてくださっていることに心から感謝申し上げます。

（石蔵さろんの会 一同）



「まちびあ」記事より

とくていひえいりかつどうほうじん 特定非営利活動法人コドモネットらくだーず

代 表 代表理事 宮 路 順 子

住 所 〒320-0032 宇都宮市昭和2丁目3番5号

TEL・FAX 028-667-6828

E-mail Rakuda.mama@hotmail.co.jp

URL <http://rakudamama.okoshi-yasu.net/>

❀ 目 的 ❀

ひとり親とひとり親家庭の子どもなどが抱える生活、教育、就労、住居などの課題解決を支援する事業を行うことをとおして、ひとり親とその子どもたちなどの自立を支援するとともに、ひとり親やひとり親家庭の子どもたちが抱える課題を社会全体で支えるつながりと仕組みをつくり、社会的に排除のない持続可能な地域づくりと、子育て・子育て環境づくりに貢献することを目的としています。

❀ 事業内容 ❀

○ひとり親家庭の親を対象とした交流会&相談会

毎月1回、らくだーず事務所（チャレンジカフェ内）で実施しています。交流会は予約なしで、どなたでもご参加いただけます。無料相談会では栃木県母子家庭等就業・自立支援センターで相談員を務めた者、臨床心理士、キャリアカウンセラーなどがボランティアで相談にあたります。（要予約）

○ひとり親家庭のお子さん対象の学習支援「ビーンズ園」

- ① 定期開催による学習支援：第3日曜日の午後にコドモネットらくだーず事務所等で開催
- ② 予約による少人数制の学習支援：1人～3人での開催（基本的には公共施設等を利用）

○シングルママのチャレンジ・カフェ

① チャレンジ・カフェ

飲食業や販売業での自立を目指す主に母子家庭の母や寡婦などを対象にチャレンジの場所を提供する事業。実際の飲食提供や販売を経験することで自立（開業）への基礎としていただく。

母子家庭の母の起業診断（県の事業・無料）、母子福祉貸付金等の申請等のアシストも行う。

② 朝市&チャレカフェまつり

“女性の働くを考える”の一環として開催。女性たちの抱える問題の解決方法を探していく。

❁ 活動報告 ❁

交流会では、子ども、仕事、養育費、ひとり親の制度の利用の仕方、整理がつかない気持ちなど、他のシングルマザーと経験や知恵を分かち合うことでヒントをつかんでいくことを目的としています。同じ立場のシングルマザーたちがリラックスした雰囲気の中で安心して本当に気持ちを話すことができ、参加された方からは「みんなも同じようなことで悩んだり、迷ったりしている。でも、頑張っていることがわかって励みになった。」などの感動をいただいています。また、交流会の中で、いろいろな情報を提供できるように心がけています。

本年度は、NPO法人しんぐるまざーずふぉーらむとの共働による「シングルマザー セミナーと相談会」を実施（9月実施、2月実施予定）することができ、大変大きな収穫となりました。

無料相談では養育費や親権について、また就業や資格取得に関するものなどが多く、父子家庭の方のご利用もありました。

学習支援については少人数による申込み、特に高校受験を迎える中学生からの要望が主でした。受験に向けて塾に行きたいが経済的な事情で塾を利用できないという方からの申込みが多く、学習支援をご利用いただくことで、ひとり親方の親と子の安心につながったと感じています。本年度、親子で行くバスツアー（ディズニーランド行き）を計画、実行することができ、忙しく働くお母さんと子どもたち、また仲間同士の交流が深まったことが大変大きな喜びとなりました。

チャレンジカフェについては、23年度、24年度、本年度はT・café、木曜くらぶ、たんぽぽぐみ、ガーベラ、ZING・CAFÉ、CAFÉ de Luceのチャレンジ者（グループ）がありました。また、とちぎユースワーカーからのインターシップ生を受け入れができたこと。今年度1月より、団体のひきこもりの若者の就業支援として、チャレンジ・カフェを利用し、カフェを土日にオープンすることなど、他団体とのネットワークを広げていくことが可能になったことも成果の1つです。いただいた助成金はカフェの内装工事費や、記録、HP等へアップするための写真撮影用のデジタルカメラの購入などに使わせていただきました。

❁ メッセージ ❁

社会全体が経済的な行き詰まりを見せる中で、ひとり親、特に母子家庭では収入が少なく、貧困状態と陥っています。親の貧困が子どもたちに大きく影響していくことは周知の事実であり、負の連鎖が生まれていきます。それを断ち切り、立ち向かう力をつけるための支援が必要だと、私たちは強く感じています。ひとり親家庭であるか、そうでないかにかかわらず、未来を担う子どもたちを社会全体で支えていくことが重要です。誰もが安心して暮らせる社会に向けて、今自分たちのできる小さな事を実行し、積み重ねていこうと思っています。



「シングルマザー セミナーと相談会」の様子



学習支援の様子